

6/30 2011



Japan Music Education Society *News Letter*

第44号

No. 44

日本音楽教育学会ニュースレター

目 次

1 日本音楽教育学会第 42 回大会（奈良大会）のお知らせ	
1-1 大会日程・企画等	2
1-2 院生フォーラム発表者募集	3
2 日本音楽教育学会第 11 回音楽教育ゼミナールのご案内	
2-1 大会日程・企画等	4
3 海外トピックス	
3-1 第 30 回 ISME 世界大会の発表申し込みについて	6
4 報告	
4-1 平成 23 年度第 1 回常任理事会報告	6
4-2 平成 23 年度第 1 回理事会報告	9
4-3 編集委員会から報告	15
4-4 選挙管理委員会から報告	15
4-5 近畿地区平成 21 年度第 2 回地区例会報告について	15
4-6 学会賞審査委員会から報告	16
4-7 音楽教育支援ポータルサイトの立ち上げ	16
4-8 学会誌電子化の検討	16
5 お知らせ	
5-1 音楽教育支援ポータルサイト	17
6 事務局より	
6-1 名簿作成と発行	18
6-2 お知らせ	18

編集後記

1 日本音楽教育学会第 42 回大会（奈良大会）のお知らせ

1-1 大会日程・企画等



大会実行委員会委員長：安田 寛
同 事務局長：劉 麟玉

平成 23（2011）年の大会は、「平成の天平」を基調に古都奈良で開催する運びとなりました。天平の奈良は、古代ギリシアから、シルクロードを経てイスラム、インド、唐・・・などさまざまな異文化交流がおこなわれた場所です。その伝統を踏まえ、本大会実行委員会では「平成の異文化交流（天平文化）」を旗印に掲げてさまざまな企画をたてております。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

1. 会場：奈良教育大学（〒630-8528 奈良市高畑町）

2. 日程：平成 23（2011）年 10 月 22 日（土）及び 10 月 23 日（日）

（仮スケジュール）

22 日 （土）	8:45 9:30	12:30	13:30	15:00	15:15	17:45	17:55 19:10	20:40
	受付 研究発表 I	* 昼食	P 研究 II・共同企画	基調講演	シンポジウム	総会	懇親会	
23 日 （日）	8:30 9:00	12:30	13:30	15:00	15:15	16:45	* = 院生フォーラム	
	受付 研究発表 II	昼食	共同企画	P 研究 I・共同企画				

3. 参加費：

会員 4000 円（事前振込）・4500 円（当日払い）

非会員 1 日のみ参加→ 2500 円・両日とも参加→ 4500 円（当日受付にお申出ください）

学生会員 1 日のみ参加→ 2000 円・両日とも参加→ 2500 円（当日払いも可）

4. プログラム：

<基調講演> 「音楽における東西の異文化交流 2000 年—平成の天平文化」

講師：ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学）

<シンポジウム> 「奈良から平成の天平文化（異文化交流の原点）を探る」

司会：村尾 忠廣（帝塚山大学）

シンポジスト：孤嶋 由昌（真言宗金蔵院住職，豊山派声明，文部省選択人間国宝）

松田 昌（鍵盤ハーモニカ奏者，作曲家，編曲家）

趙 泳培（韓国済州島教育大学）

コメンテーター：ヘルマン・ゴチェフスキ（東京大学）

<プロジェクト研究 I> 「音楽と言葉をめぐって(2)」

<プロジェクト研究 II> 「音楽教育研究におけるルールとは(1)」

他，共同研究，研究発表，院生フォーラム等多数

5. 大会実行委員会メンバー：

安田 寛，村尾 忠廣，劉 麟玉，奥 忍，杉江 淑子，嶋田 由美，藤井 康之，奥村 正子，菅 道子，高畠 克己，田島 孝一，長尾 智絵，山本 美紀（以上 13 名）

6. 会場へのアクセス：近鉄奈良・JR 奈良まで

大阪（梅田）・約 60 分 大阪（難波）・約 35 分

京都・・・約 45 分 神戸（三宮）・約 80 分

近鉄奈良駅/JR 奈良駅より市内循環バス（約 10 分）高畑町（奈良教育大学）下車

7. ホテル情報：奈良はホテルが少なく，正倉院展が重なると満室になる恐れがあります。大会HPをご参照の上，お早めに宿泊予約されますようおすすめいたします。

8. 詳細及び最新情報：URL: <http://42thconference.jshcm.com/>

1-2 院生フォーラム発表者募集

院生フォーラム企画担当
奈良教育大学大学院 近藤 圭那子
(日本音楽教育学会奈良大会実行委員会 劉 麟玉気付)

修士課程・博士課程の院生による「院生フォーラム」発表者募集！

日本音楽教育学会第42回大会（奈良大会）では、第1日目お昼の時間帯に全国の大学院生によるポスターセッションを開きます。「院生フォーラム」は大学院生が企画し実施する恒例の催しです。今年度は奈良教育大学を中心とした近畿の大学の院生が運営します。

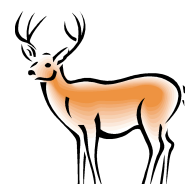
発表者はポスターを展示し、参加者は展示されたポスターを見て回ります。毎年多くのポスターの前で発表者と参加者との活発な応答が見られます。完成途上にある研究をポスターに制作して、全国からの参加者と意見交換をしてみませんか。留学生の方たちも歓迎します。みなさまの熱意溢れる発表をお待ちしております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・

- 1) 期 日：10月22日（土）11:30～13:30 講義棟1F廊下
- 2) 展示場所：奈良教育大学講義棟1F廊下
- 3) 発表資格：申込時点で学会入会手続きを完了、会費を納入した大学院修士課程あるいは博士前期課程・後期課程に在籍する学生
*入会については学会事務局にお問い合わせください。
- 4) 発表形式：ポスター展示と、ポスターのテーマ、研究計画、概要等の質疑応答。
- 5) 申込方法：以下の項目を記してメールでご送付下さい。
 - ・件名：「院生フォーラム申込（氏名）」
 - ・本文：氏名、所属大学、テーマ
- 6) 申込締め切り：9月30日（金）
- 7) 申込先・問合せ先：asaklinyu@gmail.com 院生フォーラム

宿 泊 情 報

奈良はホテルが少なく、正倉院展が重なると、満室になる恐れがあります。宿泊予約は早めにされることをお勧め致します。奈良市内のホテルに予約できない場合には大阪なんば周辺、JR/近鉄京都駅周辺のホテルをご利用下さい。大会実行委員会では宿泊の斡旋は行いません。同封の「ホテルリスト」をご覧ください。また、検索には以下のアドレスが便利です。
☞ <http://map.search.yahoo.co.jp/pl?prop=search&type=text&ei=utf-8&fa=as&p=ホテル&q=奈良&rkf=2>



2 日本音楽教育学会第11回音楽教育ゼミナールのご案内

2-1 日程・企画等

神田ゼミナール実行委員会一同

- 共通テーマ：『音楽室』を見つめる
- 開催日：平成23年（2011年）8月27日（土）～28日（日）
- 会場：共立女子大学（神田一ツ橋キャンパス3号館）

第11回音楽教育ゼミナール（神田ゼミナール）では、“研究方法”を探る・学ぶ・きわめるという大きな目標を掲げておりますが、2日間という限られた時間をフル活用するために、「音楽室を見つめる」というテーマを参加者全員が共有することになりました。さらに、研究テーマへの具体的な迫り方やアプローチの仕方について積極的な意見交換をするため、あらかじめ課題を設定しました。『音楽室』という言葉には、さまざまな場面や空間、情景が内包されています。たとえば、開放的な部屋、譜面台、壁に貼ってあるバッハの肖像画、リコーダー、子どもたちの笑い声……。みなさまからのさまざまなアイディアをもとに、何を、どうしたら研究テーマにできるのか、どうすれば面白いリサーチクエスションへと精選できるのか、一緒に考えていきたいと思っております。初日の夜には、小西行郎先生のご講演もあります。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

タイムテーブル（仮）

27 日 (土)	12:30	13:00	15:30	18:00	19:00
	受付	全体会 ・研究事例の紹介 ・共通テーマから研究 テーマへの絞り込み	グループワーク ・グループに分かれて、 問いや関心の背景を探る	夕食	講演
28 日 (日)	9:00	12:00	13:00	15:00	17:00
	グループワーク ・前日と異なるグループ 別に、グループ活動 ・リサーチクエスション の精選	昼食	中間発表 ・グループ間の討論あり ・可能ならリサーチデザインへ (研究対象・方法の選択等)	最終発表・総括	解散

【小西行郎先生のご講演 8月27日 午後7時から】

タイトル：赤ちゃん学的アプローチへのいざない

小西行郎先生のプロフィール

- ・ 日本赤ちゃん学会理事長
- ・ 同志社大学大学院心理科学研究科 教授
- ・ 赤ちゃん学研究センター センター長
- ・ 小児科医（小児神経専門医）



1947年香川県生まれ。専門は小児神経学。

京都大学医学部卒業後、同大学付属病院未熟児センター助手となる。1983年より、福井医科大学小児科講師、1988年同大学助教授。1989年より、文部省在外研究員としてオランダ、フローニンゲン大学にて発達行動学を学ぶ。1999年、埼玉医科大学小児科教授に就任。2001年10月、東京女子医科大学に乳児行動発達学講座を開設し教授となる。また、同年に赤ちゃんをまると考える“日本赤ちゃん学会”を創設。こどもたちの行動を丁寧に観察し、発達との関係性を読み解きながら理解し、そこから学ぼうと主張する。2008年10月1日より現職。

主な著書に『早期教育と脳』（光文社新書），『赤ちゃんの脳科学』（集英社新書），『赤ちゃんのしぐさ BOOK（シリーズ）』（海竜社），『知れば楽しいおもしろい 赤ちゃん学的保育入門』（フレーベル館）他。

【神田一ツ橋キャンパス 3号館の場所】・・・・・・・・・・図中の◎印が3号館です



東京メトロ・都営地下鉄
・九段下駅
6番出口から徒歩5分
・神保町駅
A1出口から徒歩4分

食事は、各自ご準備ください。
大学周辺にコンビニエンスストアはたくさんありますが、お食事処はありません。

- 参加を希望される方は、7月31日までに、下記の神田ゼミナールホームページの「申込方法」のページをご参照の上、参加費の振込と参加申込をおこなってください。参加費は3,000円です。ゼミナールの性格上、両日とも参加されることをお勧めいたします。
- 課題（2問）についても、神田ゼミナールのホームページにアクセスの上、入力してください。課題の入力締め切りは8月20日です。
- 小西先生のご講演の内容やタイムテーブルの詳細、共立女子大学の周辺地図等については、神田ゼミナールのホームページでご確認ください。

【神田ゼミナールホームページ】

☞ <http://kandasemi.blogspot.com/> 学会のホームページからもアクセスできます。

【共立女子大学ホームページ】

☞ <http://www.kyoritsu-wu.ac.jp>

【参加費の振込先】

三菱東京UFJ銀行 鷹の台出張所

店番 611 口座番号 0037528

口座名 神田ゼミナール

お詫びと訂正

ニュースレター43号に掲載しました『平成22年度第4回常任理事会記録』の中に間違いがありました。皆様に深くお詫びすると共に以下のように訂正させていただきます。

東京ゼミナール（仮称）実行委員会のメンバーが以下のとおり提案され、承認された。

小川容子 阪井恵 西島央 寺田貴雄 大沼覚子 桐原礼 塚原健太 鈴木慎一郎

訂正 → 小川容子 阪井恵 西島央 寺田貴雄 村上康子 大沼覚子 桐原礼 塚原健太 鈴木慎一郎

3 海外トピックス

3-1 第 30 回 ISME 世界大会の発表申し込みについて

国際交流委員会

北京での ISME 世界大会のご報告をさせていただいたのがつい最近のような気がしますが、早くも次回ギリシャでの大会のご案内です。第 30 回 ISME 世界大会は、ギリシャ北部の都市テサロニキで行われます（2012 年 7 月 15 日から 20 日）。大会参加の申し込みについてはまだまだ余裕がありますが、発表の申し込みについては今年の秋が締め切りです。日本からも多くの発表申し込みを期待しております。

◎発表申し込み締め切り

Main Conference：2011 年 10 月 1 日

Commission Seminars：2011 年 11 月 1 日

申し込み方法の詳細については ISME ホームページをご参照ください。

☞ <http://www.isme.org/>

4 報告

4-1 平成 23 年度第 1 回常任理事会報告

日 時：平成 23 年 5 月 15 日（土）12：30～14：30

場 所：立教大学 12 号館 第 3 会議室

出席者：加藤、有本、今川、今田、小川、奥（記録）、島崎、杉江、坪能、南

【会務報告】

審議に先立ち、加藤会長から挨拶があった。引き続いて今川事務局長より、資料に基づいて平成 23 年 2 月 19 日以降の会務報告があった。『音楽教育実践ジャーナル』vol.8 no.2, 「ニュースレター」第 43 号の発送に合わせて、会員名簿発行のための「会員情報登録票」を同封したこと、回収率が高かったこと、事務局では現在入力中であり、今年度の選挙台帳作成までには完了させる予定であることが報告された。

【審議事項】

1 平成 22 年度決算報告及び監査報告について

資料に基づいて、会計担当の島崎理事より平成 22 年度の決算報告があり、引き締め運営の結果が次年度繰越金の増加に現れていると述べられた。「収入」では、年会費の納入状況が芳しくないこと、「支出」に関しては、予算と決算の差が大きい科目について、「学会誌費」に関してジャーナルの経費が印刷所変更のために低く抑えることができたこと、「旅費・交通費」は 2 月に開かれた編集委員会のための交通費が影響していること、「事務局費」については「人件費」が大幅に抑えられた一方で名簿作成にともなう作業に費用を要したこと、「予備費」で事務局コンピュータを更新したこと、ノートパソコン購入は次年度に回したことの説明があり、承認された。会計監査の報告は理事会に回された。

2 平成 23 年度事業計画及び補正予算について

平成 23 年度事業計画の修正（案）が今川事務局長より提案され承認された。修正点は、第 42 回大会の「大会回数」の挿入と、前回未定であった第 11 回音楽教育ゼミナール「神田ゼミナール」（8 月 27 日・28 日）の追加及び会員名簿発行（12 月下旬）である。

続いて、平成 23 年度補正予算（案）について島崎理事から説明がなされた。学会誌のセット販売と経費削減努力によって単年度赤字が解消され、予想を越える繰越金を捻出することができたため補正予算を組むこととなった。しかし平成 23 年度は、前年度のような学会誌売上金は期待できない。支出の部の「例会運営費」は決算との差額が見られるが、例会の活

性化を図るために金額は据え置くこと、「旅費・交通費」は編集委員会が1回増えても対応できる額を計上したこと、「その他会計」枠の中の「Ⅲ学会基金」から今年度の名簿作成費用のための800,000円を計上しており、現在見積もりをとっている段階で、この中に納めるようにしたいこと、「Ⅳゼミナール基金」の支出については1年置き開催であり、本年度開催予定の「神田ゼミナール」は当該経費300,000円の他に参加費150,000円を見込んでいる。特別会計の事務保険費積立金は退職引当金として準備していたが、平成23年度から1人1人の事務局員を保障する保険に切り替えたため、事務局員保険費として一般会計の事務局費の中に組み入れるという説明がなされた。これらの説明の後、「平成23年度補正予算（案）」が承認された。

3 平成24年度事業計画及び予算（案）について

資料に基づき「平成24年度事業計画」について今川事務局長から2012年度はワークショップを行う年度であること、他は特に変わったことがないことが報告された。続いて「予算（案）」について島崎理事により説明がなされた。名簿発行年ではないため平成23年度よりも事務局費が削減されていること、一般会計に事務局員保険費が設定されたために特別会計の事務保険費積立金の費目が削除されたことなどの説明の後、平成24年度予算（案）は承認された。なお、名簿作成について質問があり、今後の経費の出所について議論され、一度試行後に検討することになった。

4 42回大会について（報告も含む）

開催大学への表敬訪問が加藤会長によって4月11日に行われ、学長との会談によって奈良教育大学の共催が決定したことが報告された。

(1) 大会実行委員会

杉江理事より、実行委員会の組織と準備の進捗状況について報告があった。安田寛実行委員長の下、13名の実行委員および多数の近畿地区所在大学教員を中心とする「大会協力委員」を置くこと、基調講演とシンポジウムを企画しており、準備が粛々と進んでいること等が報告された。

(2) 大会参加費

学会員の参加費は参加費：予約4,000円、当日4,500円であることが確認され、非会員については1日参加2,500円、2日4,500円、学部生は1日2,000円、2日2,500円とする実行委員会案が杉江理事から提案され、承認された。

(3) 常任理事企画

今田理事から、新規企画「プロジェクト研究Ⅱ 音楽教育研究におけるルールとは(1)一個人情報保護を中心とした学習会―」は、テーマを「音楽教育研究と実践における自由と義務―知らないと怖い倫理の話―」とし、倫理ワーキンググループメンバーによる報告と専門家、徳本弘孝首都大学東京教授による講演とすること、その趣旨、構成について配付資料に基づいて説明がなされ、承認された。

昨年度から継続する「プロジェクト研究Ⅰ 音楽と言葉をめぐって(2)」のメンバーについては、安達真由美氏、若尾裕氏、もう一人はクラシックの演奏家を考えているとのことで、関西を中心に候補者を検討することになった。

(4) 研究発表募集状況

今川事務局長より、応募締め切りは6月17日であるが、既に応募原稿が届き始めていること、『大会プログラム』の印刷所入稿は7月下旬予定であることなどが報告された。司会者の決定は7月上旬。企画担当の今田理事から司会者の依頼を始めたいとの発言があった。

(5) 大会覚え書きについて

「全国大会開催についての学会本部と大会実行委員会との覚え書き」に対する修正提案が今川事務局長と杉江理事から提案され、審議の上、以下の修正を行うことに決定した。主な点は「大会運営準備金」をめぐる項目であり、①大会運営準備金として、学会本部は大会実

行委員会宛に事前に 70 万円を「振り込む」、②大会実行委員会は、事後、実行委員会の全収入・全支出についての会計報告を領収書類のコピーを添えて提出、③全収入が全支出を上回ったときは学会本部に黒字分を納める、④大会実行委員会の全収入が全支出を下回ったときは原則的に学会本部が補填する、の 4 点である。

(6) 院生フォーラムについて

会場等決定していることが会長から報告された。

5 第 43 回全国大会（関東地区）について

会長と今川事務局長から、下道郁子会員を中心として東京音楽大学で開催することが報告された。

6 神田ゼミナールについて

小川理事から配付資料にもとづいて説明があり、リサーチの初心者を対象とした研究方法のゼミナールを行うことが承認された。共通テーマは「『音楽室』を見つめる」、日程は 8 月 27 日と 8 月 28 日の 2 日間とし、全体会からグループ活動を中心としたグループワークへと進めること、小西行郎日本赤ちゃん学会理事長に講演依頼をしていることが承認された。時間の関係で詳細は理事会の議論に引き継ぐことにした。

7 来年度ワークショップについて

2012 年度開催予定になっているワークショップの会場と運営方法について、2010 年度北海道ワークショップの成果と課題をふまえて議論された。時間の関係で詳細は理事会の議論に引き継ぐことにした。

8 名簿作成について

平成 23 年度事業計画と補正予算の検討内容を参照。

9 学会誌の電子データ化（J-stage 登載）について

今川事務局長より資料配布に基づいて報告があり、参加の方向でワーキンググループを立ち上げて検討開始することを承認した。編集委員会との関わりについても今後検討していくこととなった。

10 第 2 次倫理ワーキンググループの設置について

第 1 次ワーキングメンバーの今川、西島、榎藤の 3 委員を引き続き第 2 次メンバーとすること、さらに適任者を検討して早急に依頼することになった。

11 「編集委員会規定」について

奥理事から配付資料に基づいて「編集委員会規定」が、近年一部改正された「『音楽教育学』投稿規程」および「『音楽教育実践ジャーナル』投稿規程」との間に齟齬をきたしていることの報告があり、「『音楽教育学』投稿規程」と「編集委員会規定」の改訂案が提案され、承認された。主な改正点は「『音楽教育学』投稿規程」では原稿の種類に「論考」を加えること、「編集委員会規定」に関しては条項番号と文言を以下のように改訂することである。

第 2 条 この委員会は、『音楽教育学』および『音楽教育実践ジャーナル』の編集を行う。

- (2) 『音楽教育学』は、本学会会員の研究論文、及び研究報告、論考、研究動向、書評論文、書評、反論等を掲載する。『音楽教育実践ジャーナル』は、本学会会員の実践的な音楽教育研究（論文、報告、討論、提案、書籍紹介等）を掲載する。
- (3) 委員会は、『音楽教育学』に投稿された研究論文、研究報告、論考、研究動向、書評論文、反論について複数の査読者に査読を依頼し、この結果をもとに採否を決定し、理事会に報告する。
- (4) 委員会は、『音楽教育実践ジャーナル』に投稿された論文、報告について複数の査読者に査読を依頼し、この結果をもとに採否を決定し、理事会に報告する。

12 会則・細則等改訂について

今川事務局長から、2 月常任理事会で承認済みの改定案を理事会に提案することが説明された。

13 参事について

加藤会長から、J-stage に関連して、既に承認済みの 2 名の参事に加えて木下和彦会員、松本哲平会員、渡邊拓会員の 3 名に参事を委嘱することが提案され、承認された。

14 大震災への学会の対応について

震災以後、メール会議で様々な提案がなされたこと、ならびに「音楽教育支援ポータルサイト」（配付資料付）立ち上げについて報告があった。時間の関係で継続審議となった。

15 名誉会員について

該当者がいないという報告があり、審議は不要となった。

16 新入会員及び退会会員について

2011 年 2 月 19 日以後について、25 名の新入会員と 1 名の学生会員、35 名の申し出退会者を承認した（関連記事を 14 頁に掲載）。

17 その他

特になし。

【報告事項】

時間の関係で理事会で行うことになった。

* 次回常任理事会 7 月 10 日 14 時～ 場所未定。

4-2 平成 23 年度第 1 回理事会報告

日 時：平成 23 年 5 月 15 日（土）14：30～17：30

場 所：立教大学 12 号館 第 2 会議室

出席者：加藤、有本、今川、今田、小川、奥、後藤、阪井、島崎、新山王、菅、杉江、筒石、坪能、寺田、西島、南、三村、山本（記録）

（事務局：亀山、中村、大橋）

監査報告：田中

加藤会長の挨拶の後、審議事項 1（後述）の後今川事務局長から事務局スタッフ紹介があり、つづいて会務報告を確認した。

会務報告 ＜平成 23 年 2 月 19 日以降＞

2 月 19 日 平成 21 年度第 4 回常任理事会

3 月 28 日 ニュースレター第 43 号発行、『音楽教育実践ジャーナル』vol.8 no.2 発行
平成 21 年度会計決算

4 月 23 日 平成 22 年度会計監査会

4 月 30 日 音楽教育関係文献リスト申請締め切り

5 月 14 日 平成 23 年度第 1 回編集会

5 月 15 日 平成 23 年度第 1 回学会賞審査委員会、平成 23 年度第 1 回常任理事会・理事会

【審議事項】

1 平成 22 年度決算報告及び監査報告について

島崎会計担当理事が平成 22 年度決算報告を行った。会費未納が多いことが問題であるが、各部門の努力により支出が削減され、多くの繰越金が出たことが報告された。続いて特別会計について資料に基づいて説明がなされた。研究出版基金と学会基金については十分な積み立てがあるので新たに積み立てなかったこと、ゼミナール基金を 5 万円積み立てたこと、事

務保険費積立金についての説明などがなされ、全体として財政状況は好転したことが報告された。この後、田中会計監事が監査結果の報告を行った。監査は本多会計監事とともに4月23日に行い、適正に会計処理されていることを確認した旨報告があった。以上、全員一致で会計報告を承認した。

2 平成23年度事業計画及び補正予算について

今川事務局長が平成23年度事業計画修正案について説明し、全員一致で承認された。続いて島崎会計担当理事が平成23年度補正予算案について資料に基づき説明した。前年度からの繰越金増などにより補正予算を組む必要があること、収入については正会員数の変化の可能性、事務保険費を一般会計に組み込むこと等、支出については通信・郵送費、事務費、事務局運営費、ゼミナール積立金等についての説明がなされ、特別会計に関しては学会基金から名簿作成費を80万円計上することが説明された。以上、全員一致で補正予算案を承認した。

平成23年度事業計画修正案（網かけが修正箇所）

平成23年 4月中旬	平成22年度会計監査会
5月初旬	平成23年度第1回編集委員会 平成23年度第1回常任理事・理事会
6月初旬	第42回大会 研究発表・共同企画申し込み締め切り
6月下旬	音楽教育学 第41巻第1号 発行 ニュースレター 第44号 発行 第20期日本音楽教育学会会長・理事選挙
7月上旬	平成23年度第2回常任理事会 平成23年度第2回編集委員会 研究発表受理通知
8月27・28日	第11回音楽教育ゼミナール「神田ゼミナール」
8月下旬	音楽教育実践ジャーナル vol.9 no.1 発行 ニュースレター 第45号 発行 第42回大会プログラム発送
10月 21日	第3回編集委員会、第3回常任理事会・第2回理事会
10月22・23日	第42回大会・総会 会場： 奈良教育大学
12月下旬	音楽教育学 第41巻第2号 発行 ニュースレター 第46号 発行 会員名簿発行
平成24年 2月中旬	平成23年度第4回編集委員会 平成23年度第4回常任理事会
3月末日	音楽教育実践ジャーナル vol.9 no.2 発行 ニュースレター第47号 発行 平成23年度会計決算

3 平成24年度事業計画及び予算について

今川事務局長が、平成24年度事業計画について資料に基づき説明し、8月に第6回ワークショップを実施することを含めて、全員一致で承認された。

平成24年度予算案については、島崎会計担当理事から、通信・郵送費について23年度補正予算案より減額だが多めに見積もっていること、事務保険費積立金の代わりに事務局費の中に事務局保険費が含まれたこと、今後の名簿作成のペースにもよるが学会基金を多めに5万円計上したことなどが説明され、全員一致で承認された。

4 第42回大会について（報告も含む）

☆大会実行委員会について：

大会実行委員長 安田寛会員，副委員長 村尾忠廣会員

大会事務局長 劉麟玉会員，

事務局長補佐 奥忍理事，学会本部との連絡係 杉江淑子理事

会計担当 嶋田由美会員，藤井康之会員

実行委員 13名のほか，大会協力委員を20名依頼した（詳細は7頁を参照）。

☆常任理事企画：常任理事会承認事項が報告され，承認した。

☆研究発表募集状況：6月17日締め切り厳守のこと，書式等の注意事項が確認された。

☆大会覚え書きについて：

「大会開催についての学会本部と大会実行委員会との覚え書き」の一部改訂が提案され，承認された。

☆院生フォーラムについて：

院生が主体となって行うものであるが，実行委員会の中から責任者（世話役）を選ぶこととなった。

5 第43回大会（関東地区）について

東京音楽大学で開催する方向で検討中であることが加藤会長から報告され，全員一致で承認した。

6 神田ゼミナールについて

小川理事から資料に基づき，8月27・28日の神田ゼミナールの概要について説明があり（詳細は4頁を参照），全員一致で承認した。

7 来年度ワークショップについて

加藤会長から，2010年度札幌でのワークショップの成果を踏まえて今後各地区で順番に開催する方向性が提案された。寺田理事から「第5回夏期ワークショップ in Sapporo 2010」の報告として，赤字になる可能性の問題，準備期間の確保の必要性，地域外からの参加者が得られ地元会員にとってメリットがあったこと，新入会員の勧誘にもなることが述べられ，今後は学校現場などにもアピールする企画や院生・学生教育との連動を図ることで，開催地区にとっても意味あるものになるのではないかと考え方が示された。

関連して，日韓合同ゼミナールの持ち方について，日韓との合体可能性と各地区でのワークショップ開催とがあわせて検討された。ワークショップを地区として引き受けることの負担を懸念する意見も出されたが，地区例会の発展的な形としてワークショップを開くことができ，地区の活動の活性化が図られるという意見が出された。これらの検討を受けて，2012年度に関しては，日韓ゼミナールとワークショップを合体して東京で開催することとし，各地区でワークショップを順番に開催していくことについては，2014年度以降の課題として継続審議することになった。なお本理事会直後のメール会議によって，日韓ワークショップの開催の可能性に関連して，特別会計に国際的な活動を支える国際交流基金を設定することが承認された。

8 名簿作成について

今川事務局長より名簿作成と発行の計画が説明され，3月に送付した「名簿作成の基本方針」，紙媒体での発行について確認された。

9 学会誌の電子化（J-stage 登載）について

今川事務局長より，資料に基づき説明があった。独立行政法人科学技術振興機構（JST）運営のJ-Stageへの参加について，本格的な検討を開始することが承認され，学会誌電子化検討のためのワーキンググループ立ち上げが認められた。なお，電子化の利点として，オープンリソースであるがパスワードをかけることができること，引用・被引用の関係が明らかに

されること、電子化によって被引用が増えることが予想されることなどがあげられた。これに対して、執筆者の許諾についての質問がなされ、著作権ポリシーなどがワーキンググループの検討課題となることが確認された。

10 第2次倫理ワーキンググループ設置について

加藤会長から、2011年2月18日に第1次ワーキンググループの答申が出され、学会としての方針が示されたこと、倫理綱領作成に向け次の段階に入ったこと、第2次ワーキンググループを立ち上げることが提案された。また、メンバーについても加藤会長から示され、全員一致で承認した。

11 編集委員会規定・投稿規定について

常任理事会で承認された内容を確認し、全員一致で承認した。

12 会則・細則等改訂について

坪能理事より、平成22年度第4回常任理事会（2011年2月19日）で承認された会則・細則等改定案が示された。主な改訂点は、国際交流委員会、広報委員会、参事組織の追加、各委員会規定を「各委員会規定で別に定める」とするなど、現状にあわせた文言の整備、齟齬の解消であることが説明され、全員一致で承認した。

13 参事について

常任理事会で承認された内容を確認し、全員一致で承認した。加藤会長から、参事は理事の推薦により随時承認・決定することができるとの補足があった。

14 大震災への学会の対応について

加藤会長より、「音楽教育支援ポータルサイト企画案」資料に基づき、同サイトを立ち上げたいとの提案があった。基本的な賛同と同時に、責任者を置く必要があるとの意見が複数の理事から出された。また、あくまでも“場”を提供するのが趣旨であることが確認され、加藤会長を責任者としてサイトを立ち上げる方向で検討を続けることとなった。

15 名誉会員・新入会員及び退会者について

常任理事会で承認された内容を確認し、全員一致で承認した。

【報告事項】

1 各委員会報告

○編集委員会

西島理事より、5月14日に第1回編集委員会があり、『音楽教育学』で掲載決定された論文が1本、不掲載が1本、前回に修正再査読となった論文1本は修正辞退となったことが報告された。『音楽教育実践ジャーナル』では自由投稿で掲載決定したものが1本、修正の上再査読としたものが3本、その他特集のための応募が4本あり、そのうち掲載決定が3本であったことが報告された。

○国際交流委員会

菅理事より、日韓合同ゼミナール開催時期について検討内容が報告された。坪能理事と水戸委員長が協議していること、韓国の会長と加藤会長との直接の連絡の必要性などについても報告された。

○音楽文献目録委員会

資料に基づき報告内容を確認した。

○学会賞審査委員会

加藤委員長より、菅裕会員の論文が選定されたこと、奈良教育大学で開催される第42回大会において授賞式が行われることが報告された（詳細は15頁を参照）。なお学会賞審査委員会規定の改訂の必要について、学会賞審査委員会で検討することについても報告された。

○選挙管理委員会

永岡選挙管理委員長に代わって今川事務局長より、資料に基づいて選挙関連日程の報告が行われた。選挙関連日程は以下のとおりである。

6月11日（土） 選挙関係書類の封入と発送作業（事務局にて）

6月27日（月） 投票締め切り

7月2日（土） 開封作業（事務局にて）

2 例会報告

北海道地区（寺田理事） 1月23日に北海道教育大学旭川校で開催した。研究発表が3件、ミニコンサートとしてモリンホールのコンサートを行った。演奏者は中国内モンゴル自治区出身の北海道教育大学院生である。

東北地区（今田理事） 3月5日に宮城教育大学で開催した。震災の1週間前であった。発表は5件、宮城教育大学の院生が1名、学部の卒論が2名、現職の教員が2名であった。

関東地区（山本理事） 3月5日に国立音楽大学で開催した。坪能理事をコメンテーターに迎え、井上恵理会員、打楽器奏者の新谷祥子氏（非会員）、岩本達明会員によりワークショップとディスカッションを行った。参加者は49名であった。

北陸地区（後藤理事） 3月12日に金沢大学で開催した。震災の翌日で欠席が多く、7件の発表予定のうち2件が中止となった。延期が難しく、開催できてほっとしている。

東海地区（新山王理事） 2月20日に愛知教育大学で開催した。修士課程院生3名と専門職大学院生2名、一般会員による2件の発表を行い、静岡大学に実践報告をお願いした。なお、実践報告の元となった授業についてはDVD化され市販されるとのことである。

近畿地区（奥理事） 22年度第2回例会を3月26日に京都教育大学で開催した。日韓合同ゼミナールで協力頂いたキム・イルチ氏、リ・チャンソク氏、アン・シンミン氏（いずれもパンソリの演奏家）の演奏会をおこなった。今年度の第1回の例会を、5月28日に滋賀大学で開催予定である。

中国四国地区（三村理事） 3月13日に山口大学で開催した。22件の研究発表があり、卒論発表が7名、院生の発表が12名、一般が3名であった。参加者は47名で、2箇所の会場での発表となり非常に盛り上がった。四国からの発表が0件、参加者が1名（非会員）であったことは、残念であった。

九州地区（木村理事→菅理事） 3月5日に佐賀大学文化教育学部で開催した。4件の研究発表（大学教員1名、教職大学院生2名、学校教員1名）があり、参加者は49名であった。

3 会員の資格等に関する内規について

今川事務局長より、資料に基づき説明がなされ、全員で確認した。

4 その他（ニュースレター締め切り・事務局からのお知らせ等）

*第3回常任理事会・第2回理事会 10月21日 時間未定 奈良教育大学。

新入会員（平成 23 年 2 月 19 日以降）：25 名

会員番号	氏名	所属先	会員番号	氏名	所属先
3786	福井 真裕子	聖母女学院短期大学	3799	栗木 陽子	広島大学大学院(院生)
3787	末成 妙子	山口県立下関総合支援学校	3800	井内 志穂	広島大学大学院(院生)
3788	東小路 恵美	福岡教育大学大学院(院生)	3801	堀江 遥	広島大学大学院(院生)
3789	瀬尾 史穂	青山学院初等部	3802	高木 克昭	福岡教育大学大学院(院生)
3790	秋山 真理子	就実短期大学	3803	大野内 愛	広島大学大学院(院生)
3791	西濱 由有	愛知東邦大学	3804	本野 洋子	國學院大学幼児教育専門学校
3792	垣浪 文美香	東京学芸大学大学院(研究生)	3805	鈴木 正樹	
3793	齊藤 豊	東京学芸大学附属世田谷小学校	3806	山下 香	東京学芸大学大学院(院生)
3794	大石 美和	高知大学大学院(院生)	3807	小原 梢	文教大学大学院(院生)
3795	久米 郁里	聖心女子大学大学院(院生)	3808	塚原 利理	名古屋大学大学院(院生)
3796	中内 悠介	早稲田大学大学院(院生)	3809	赤羽 美希	東京音楽大学
3797	川又 文子	東京音楽大学大学院(院生)	3810	福間 友香	山口大学大学院(院生)
3798	守田 ちひろ	関東短期大学			

学生会員

会員番号	氏名	所属先
B-67	杉原 歩	広島大学

【5 月 11 日現在 正会員数：1498 名 学生会員数：4 名】

※ニュースレター 43 号の新入会報告に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤：3774 山崎正 常葉学園大学（院生）→ 正：3774 山崎正 常葉学園大学

ちょっと早いのですが・・・来年のお知らせです！
日本音楽教育学会第 43 回大会は、東京音楽大学にて 2012 年 10 月 7 日(日)・
8 日(月 体育の日)に開催する方向で、現在検討中です。



4-3 編集委員会から報告

編集委員会委員長 村尾 忠廣

2011 年度第 1 回編集委員会 報告

本年度第 1 回編集委員会は、2011 年 5 月 14 日（土）、立教大学で開催されました。委員会での報告、協議内容は以下の通りです。

1. 『音楽教育学』・『音楽教育実践ジャーナル』進捗状況の報告

担当編集委員から進捗状況の報告があり、以下のことが確認された。

1) 『音楽教育学』vol.41 no.1

「研究論文」は 3 本が掲載の見込みであること、「書評」については諸事情で今回は掲載されないとの報告があった。

2) 『音楽教育実践ジャーナル』vol.9 no.1

海外からの依頼原稿はすべて翻訳を終えたこと、執筆が遅れている人の状況などについて報告があった。

3) 『音楽教育実践ジャーナル』vol.9 no.2

執筆依頼についての報告がおこなわれた。予定された執筆者から概ね内諾が得られたが、1 名は未定で 1 名は内諾が得られなかった。代わりの執筆者を選定中である。

4) 『音楽教育学』vol.41 no.2 について

担当者 2 名の確認をおこなった。

2. 投稿原稿の採否について

『音楽教育学』への投稿原稿に関しては、協議の結果、修正を条件としていた 2 つの「研究論文」が新たに掲載可となったが、その内 1 本についてはさらなる修正を条件とした。『音楽教育実践ジャーナル』については特集、自由投稿を含め、4 本が修正を条件としながらも掲載可となった。その他は「修正し、再査読」、もしくは「掲載不可」となった。

3. 「編集委員会規定」・「投稿規定」の整合性をめぐる議論と改正案について

「編集委員会規定」と「投稿規定」の整合性を欠く部分について、編集委員会としての改正案を作成、検討した。その結果を常任理事会に提案することになった。

4. 「地区例会報告」の依頼文、テンプレートの修正について

「地区例会報告」に関して、非会員のアブストラクトが掲載される問題があらためて協議されその結果、今後こういうことのおこらないように執筆依頼文とテンプレートを修正し、執筆責任者による報告となるよう徹底を図ることにした。

* 『音楽教育実践ジャーナル』vol.9 no.2 は「音楽の授業に果たす授業の役割」を特集テーマにしています。詳細は、学会ホームページの「論文募集」をご覧ください。

4-4 選挙管理委員会から報告

選挙管理委員会委員長 永岡 都

6 月 11 日付けで、第 20 期会長選挙・理事選挙関係書類を発送致しました。投票の締め切りは平成 23 年 6 月 27 日（当日消印有効）、開票は同 7 月 2 日（予定）です。選挙についてご不明な点がありましたら、選挙管理委員会（事務局内）までお問い合わせください。

お問い合わせは ☎ E-mail : onkyoiku@remus.dti.ne.jp

4-5 近畿地区平成 21 年度第 2 回地区例会報告について

会長 加藤 富美子

日本音楽教育学会近畿地区では、平成 21 年度第 2 回地区例会の企画の一つとして、ワークショップを開催しました。後日、非学会員からこのワークショップに関する要望書が提出されたため（ニュースレターNo.41 参照）、学会誌への例会報告は著作権にかかわる法的判断を待って掲載を見送ってきました。しかし、平成 23 年 5 月 31 日現在において法的判断に進捗がみられないため、学会誌を通しての会員への地区例会報告の意義を重んじて、『音楽教育学』41-1 号に平成 21 年度第 2 回地区例会報告を掲載しました。

4-6 学会賞審査委員会から報告

学会賞審査委員会委員長 加藤 富美子

平成 23 年 5 月 15 日開催の学会賞審査委員会において、第 2 回学会賞の受賞者が以下のように選定されました。なお、授賞式は平成 23 年 10 月 22 日に日本音楽教育学会第 42 回大会（奈良教育大学）にて執り行われます。

◎ 第 2 回学会賞受賞者 菅 裕 氏

◎ 授賞対象論文「経験年数の異なる 5 名の吹奏楽指導者の演奏指導方法と指導観の比較」

（『音楽教育学』vol.39 no.1, 2009 年 6 月）

選定理由

当論文は、演奏指導方法と指導観について、吹奏楽指導者の資質という絞り込んだ視点のもと、教育実践上の問題意識とそれを実証的に説明するための方法を繋げた研究である。演奏指導方法の研究という、音楽教育において中核となるべきものでありながら普遍的な研究方法を見出しにくいテーマに意欲的に挑み、広く海外の先行研究、隣接する学問分野の研究もふまえた分析および調査の方法による考究は、これからの音楽教育学研究に新たな方向性を与えるものである。今後より多くの会員が積極的に音楽教育学の新しい課題にチャレンジしていくためにも、本研究は先進的な取り組みとして意義ある研究と位置づけることができる。

以上の理由により、第 2 回学会賞にふさわしいものとして選定した。

4-7 音楽教育支援ポータルサイトの立ち上げ

会長 加藤 富美子

このたびの大震災により被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

私たちは音楽教育に携わる者として、どのような支援ができるのかを考えてきました。そして音楽と教育に関わる具体的な被災地復興支援の一つとして、日本音楽教育学会として「音楽教育支援ポータルサイト」を立ち上げることにいたしました（詳細は 17 頁を参照）。被災地の学校における音楽教育と地域の音楽活動を継続的に支援するために、情報交流の場を設けることがねらいです。

このサイトは、会長のもとに若手メンバーが中心となって運営しております。多数の方がアクセスされ、学会の叡智が結集してより大きな支援の輪となることを期待しております。また、この活動に積極的にご助力、ご協力くださる方のお声を心よりお待ちしております。

4-8 学会誌電子化の検討

会長 加藤 富美子

近年、学術情報の電子化が急速に進み、グローバルに流通するようになっていきます。こうした中で少なからぬ学会が、インターネット上で学会誌掲載論文を公開したり、電子ジャーナルを発行するなどしています。本学会としても、学会誌論文の電子化等をはじめとする何らかの方策によって、学術団体としての情報発信力を高める努力を検討する時期に来たと考え

ます。そこで5月15日の理事会記録にもありますように、学会誌電子化検討ワーキンググループを立ち上げ、この課題への本格的な取り組みを開始することとなりました。

5 お知らせ

5-1 音楽教育支援ポータルサイト

「音楽教育支援ポータルサイト」運営メンバー一同

「音楽教育支援ポータルサイト」の企画は、被災地復興支援の一環として、人と人、人と物をつなげる情報交流の場を作ることを中心に始動しました。今、すぐにできる支援から、長期的な見通しをもった支援まで、本企画で何ができるのかを会員の皆様からお寄せいただきたいと思っています。ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

「音楽教育支援ポータルサイト」には支援の実現までの流れや、支援に赴く際の注意事項などを掲載していますので、情報提供をお考えの方は本サイトをご覧ください。お寄せいただいた情報は運営メンバーで検討・集約し、ポータルサイトに掲載いたします。その上で、マッチングが可能になったものから実際の支援の提供が行われます。

学会員の皆様よりのご要請、ご提案、そして本企画へのご意見をお待ちしております。この企画を通して、一人でも多くの方々への支援が実現できるよう、メンバー一同努力してまいります。

「音楽教育支援ポータルサイト」はこちら <http://onkyoiku-support.blogspot.com/>
学会ホームページからもアクセスできます。

～このような情報をお寄せください！～

➤ 支援の要請

学会員より、具体的な支援要請や、ご本人が関わっている機関・団体で必要としている支援などに関する情報をお寄せください。

たとえば・・・

「音楽の授業で使用するリコーダーが足りません。」

「楽器がなくても楽しめるような授業のアイディアはありませんか？」

➤ 支援の提案・提供

学会員より、人的、物的支援の提供に関する情報をお寄せください。また共同支援などのアイディアの提案でもかまいません。人的支援の場合、学会員が中心メンバーとしてかかわっていることが条件で、金銭は集めないこととします。

たとえば・・・

「ゼミ単位で何か支援ができればと考えています。できることがあったら情報をください！」

「楽器提供の際の、消毒、仕分け、梱包などの人手を提供できます！」

「被災地の小学校でハンドベルのコンサートを行う予定です。一緒に演奏に加わってくださる関東圏の大学院生を募集します。」

本企画は下記のメンバーで運営をスタートします。

[責任者]

加藤富美子／有本真紀／今川恭子

[スタッフ]

大沼覚子／木下和彦／久米郁里／塚原健太／松本哲平／村井沙千子／渡邊拓

併せて・・・本企画をお手伝いして下さる学会員を募集しております。詳細は、以下のメールアドレスまで、お問い合わせください。

お手伝いを検討中の方はこちら [✉ onkyoikushien@gmail.com](mailto:onkyoikushien@gmail.com) (担当：大沼覚子)

6 事務局より

6-1 名簿作成と発行

事務局長 今川 恭子

すでにお知らせしておりますように、本学会では今年度中に会員名簿の発行を予定しております。名簿作成から会員への配布にいたるまで、個人情報の取得と利用に関するルールを適切に遵守し、会員の皆様にとって有益な名簿が完成するよう努力いたします。皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

名簿作成と発行は以下の基本方針に沿って行います（平成 23 年 3 月 31 日付常任理事会からの「平成 23 年度名簿発行ならびに選挙台帳作成に向けてのお願い」をご参照ください）。今後この件に関してご不明の点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

- 会員名簿は、音楽教育学研究および実践に携わる本学会員の交流と親睦を目的に、会員相互の信頼に基づいて作成、配布するものである。
- 名簿作成の目的、管理と廃棄に関するルールは名簿上に明記する。
- 名簿記載事項は平成 23 年 4 月 30 日締め切りの問い合わせへの回答に基づく。非掲載を希望する項目については空欄とする。また、回答がない場合には事務局登録情報の内「原則公開」の項目（氏名・会員番号・所属地区・所属先・登録住所）を記載する。
- 上記方針について、平成 23 年 4 月 1 日から 7 月 1 日までの 3 ヶ月間、ホームページ上に公開する。また、ニュースレターを通してこのことの周知を図る。

6-2 お知らせ

- 第 42 回大会研究発表の申込みを締め切りました。多数のお申込みを有難うございました。
- 平成 23 年 4 月 30 日締め切りの「会員情報登録票」をまだ返送されていない方は、至急必要事項を記入してご返送ください。この問い合わせにご回答いただけない場合、今後の出版物送付等に支障が出ることもございます。
- 今年度は名簿発行を予定しております。名簿記載事項は、平成 23 年 4 月 30 日締め切りの問い合わせ（「会員情報登録票」）への回答に基づきます。ご回答がない場合には、事務局登録の氏名・会員番号・所属地区・所属先・登録住所を記載することになります。「会員情報登録票」返送後も、名簿記載事項に関するご希望等がある場合は、かならず事務局にお知らせください。
- 新入会申込の際には、申込書とともに会費の納入をお願いいたします。会費の納入が確認され次第入会手続きが行われ、会費納入日が入会日となります。
- 会費の振込の際、郵便振替用紙へのお名前と会員番号の記入を忘れずをお願いいたします。

- 事務局へのお電話でのお問い合わせは、開局時間内をお願いいたします。業務の多寡によって、不定期に閉局している場合もありますので、メールやファックスもご利用ください。
- 『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』のバックナンバーを販売しております。お申し込みは、お名前・ご希望の誌名と巻号・冊数・送付先をメールかFAXにてお知らせください。なお、請求書・領収書等が必要な場合は、請求書・領収書類の宛名を書き添えて、申し込み時にお知らせください。『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』とも、全号セット販売は終了しましたが、各巻・号別に対応しております。事務局に在庫状況をお問い合わせください。5冊以上ご注文の方は送料無料です。『音楽教育学』『音楽教育実践ジャーナル』ともに、在庫数が少なくなっております。ご希望の方はお早めにお申し込みください。お待ちしております。

◆ 事務局開局時間

月 9:00～13:00 火・金 9:00～15:00

時間外のご用件はE-mail (onkyoiku@remus.dti.ne.jp) へ

◆ 事務局員の移動

亀山さやか・中村幸子・大橋麻里子

※ 4月より大橋麻里子が新しくスタッフとなりました。
どうぞよろしくお願いいたします。



..... 【編集後記】

前号(43号)から、前半に、大会やゼミナール等のお知らせ、後半に、常任理事会や理事会、諸委員会からの報告を掲載するようにしました。会員の皆様に「いち早く」お知らせしたい情報・お届けしたい記事を最初に掲載することで、ニュースレターを身近に感じていただきたいなあと考えております。学会のホームページにも多くの皆様がアクセスしてくださっているようで、心より感謝申し上げます。次号の【会員の窓】では、海外の学会やゼミナールに参加された皆様の声をお届けできることと思います。併せて、「ユニークな演奏会がありました」「素敵な子ども達と出会いました」といった発信もできたらと考えております。カメラをかついで取材に伺いますので、さまざまな情報をお寄せください。お待ちしております。 坪能由紀子・小川容子 記

平成 23 年度 日本音楽教育学会役員

会長：加藤富美子

副会長：有本真紀

常任理事：今川恭子（事務局長），坪能由紀子・小川容子（総務），杉江淑子・
島崎篤子（会計），今田匡彦・南曜子（企画），奥忍（編集）

理事：寺田貴雄（北海道），阪井恵・筒石賢昭・西島央・山本幸正（関東），
後藤 丹（北陸），新山王政和（東海），三村真弓（中国・四国），
菅裕・木村次宏（九州）

会計監事：田中健次・本多佐保美

参事：大沼覚子（広報），塚原健太・木下和彦・松本哲平・渡邊拓（総務）

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

TEL&FAX：042-381-3562 E-mail：onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日：月・火・金

開局時間：月（9：00～13：00）火・金（9：00～15：00）